Ⅲ―４　外国語

特定の課題に対する調査
教科等別結果の分析と考察

1 【系統性】の理解に基づく【連続性】を確保した調査企画の全体像

領域	指導事項（コミュニケーション活動例）	
ア　聞くこと	(ｱ)	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
	(ｲ)	自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。
	(ｳ)	質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
	(ｴ)	話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
	(ｵ)	まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

イ　話すこと	(ｱ)	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
	(ｲ)	自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
	(ｳ)	聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
	(ｴ)	つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
	(ｵ)	与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

ウ　読むこと	(ｱ)	文字や符号を識別し、正しく読むこと。
	(ｲ)	書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
	(ｳ)	物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
	(ｴ)	伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
	(ｵ)	話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ　書くこと	(ｱ)	文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
	(ｲ)	語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
	(ｳ)	聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
	(ｴ)	身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
	(ｵ)	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

※S～C：設問レベル、【表】外国語表現の能力　【理】外国語理解の能力、
【知】言語や文化についての知識・理解、番号：設問番号

中学校		
第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
※調査対象としない	出題範囲：小学校第 5・6 学年、中学校第 1 学年	出題範囲：中学校第 2 学年
	・C【理】【知】1-2	・C【理】【知】1-2
	・C【理】1-1-1 ・B【理】1-1-2 ・S【表】【理】1-5-2　※領域複合エ(ｳ)	
	・C【理】1-3-1 ・B【理】1-3-2	・C【理】【知】1-1-1 ・B【理】【知】1-1-2
	・C【理】【知】1-4-1	・B【理】【知】1-3
	・A【理】1-5-3	・B【理】1-4-2
	・C【表】【知】2-1-1 ・B【表】【知】2-1-2	
	・B【表】【知】2-3-1 ・B【表】【知】2-3-2	・C【表】【知】2-1-1 ・C【表】【知】2-1-2 ・B【表】【知】2-1-3 ・B【表】2-2-1 ・B【表】2-2-2
	・C【表】【知】1-4-2	
		・A【理】4-5　※領域複合ウ(ｵ)
	・B【理】3-1 ・B【理】3-2 ・A【理】3-3 ・B【理】4-1 ・A【理】4-2 ・B【理】4-3	・B【理】4-1 ・C【理】4-2 ・B【理】4-3-1 ・B【理】4-3-2 ・A【理】4-5　※領域複合イ(ｵ) ・C【理】5-1 ・B【理】5-2 ・A【理】5-3-1 ・A【理】5-3-2 ・A【理】5-4 ・S【表】【理】5-5　※領域複合エ(ｳ)
	・A【表】【理】5-1　※領域複合エ(ｴ)	・A【表】【理】3　※領域複合エ(ｴ)
		・B【理】4-4
	・B【表】【知】2-2-1 ・B【表】【知】2-2-2	
	・S【理】1-5-1 ・S【表】【理】1-5-2　※領域複合ア(ｲ)	・S【理】1-4-1 ・S【表】【理】5-5　※領域複合ウ(ｳ)
	・A【表】3-4 ・A【表】【理】5-1　※領域複合ウ(ｴ)	・A【表】【理】3　※領域複合ウ(ｴ)
	・S【表】5-2	・S【表】6

2　結果の分析と考察

（1）5段階の学習状況の評定（学力段階）（再掲）

校種・学年		平均	全体に占める各学習状況の児童生徒の割合 R1	R2	R3	R4	R5
小学校	第3学年						
	第4学年						
	第5学年						
	第6学年						
中学校	第1学年						
	第2学年	3.00	9.2%	23.4%	33.4%	26.3%	7.7%
	第3学年	2.68	14.6%	28.2%	35.1%	18.8%	3.3%

0.0%　20.0%　40.0%　60.0%　80.0%　100.0%

※学習指導要領に準拠した調査実施の前学年の学習状況の評定（学力段階）
R5 発展的な力が身に付いている　　R4 十分定着がみられる
R3 おおむね定着がみられる（最低限の到達目標）
R2 特定の内容でつまずきがある　　R1 学び残しが多い

（2）学習状況の評定（学力段階）ごとの平均正答率（教科等全体）（再掲）

	小学校 第3学年	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
全体						61.4	49.4
R1						18.0	17.2
R2						38.2	34.4
R3						64.1	54.6
R4						83.9	79.3
R5						94.3	92.0

〔学力段階に関する考察〕

○「杉並区教育ビジョン 2012 推進計画」の目標Ⅰに準拠すると、中学校第 3 学年における R3 以上の割合はおよそ 50%であり、平成 33 年度の目標値 80%からは 30 ポイント低い状況である。この状況を生徒数に換算すると、平成 33 年度目標値に至るためには、杉並区全体では 600 人（学年を 2,000 人とした場合）、1 校あたりではおおむね 26 人を R3（以上）に引き上げることが必要である。

○学年の進行に伴い R2 が 4.8 ポイント増加している一方、全段階での変化の度合いが最も大きいのは R4 の 7.5 ポイント減である。

○R2 は、主として基礎 B の設問を（おおむね）通過できなかった場合の評定である。基礎 B は 4 領域の全て、かつ外国語表現と理解の能力の両観点で出題しており、コミュニケーション活動における基礎的な知識や基本的な技能を出題内容としている。特に中学校第 1 学年を出題範囲とする第 2 学年の設問は、小学校外国語活動からの【系統性】【連続性】を踏まえ、全設問に占める「聞くこと」「話すこと」の割合が高い。小学校の指導が充実しつつある今、小・中の接続に大きな課題がある。

◎（概括 1）R1・5 はほぼ固定である一方、中学校第 2 学年(第 1 学年の内容）の時点では「R3 おおむね定着がみられる」生徒が、学年進行に伴い「R2 特定の内容でつまずきがある」状況になる傾向があると考えられる。同時に「R4 十分定着がみられる」生徒が R3 に後退する傾向が顕著である。総体的に学年の進行に伴い一つ下位に評定される生徒が発生すると考えられる。

◎（概括 2）特に R1・2 は、小学校外国語活動からの系統性と連続性を理解・確保のための校種を超えた協働を通じて聞くこと・話すことの活動、音声から記号への接続を図る手だてを一層重視して現状を改善していくことができると考えられる。

〔教科全体の学力段階ごとの平均正答率に関する考察〕

○段階ごとの正答率は、R1 から R5 の全段階において、学年の進行に伴い、1～9 ポイントの範囲で減少傾向がみられるが、R1 では微減であることが特筆される。

○全体の正答率と R3 のそれとの差は、両学年とも R3 が高く、学年進行に伴い大きくなる。この背景には、上述した学年進行に伴う R2 の増加が要因としてある。

○段階間の正答率の差は、両学年ともに、下位の段階に行くほど大きくなる傾向がある。

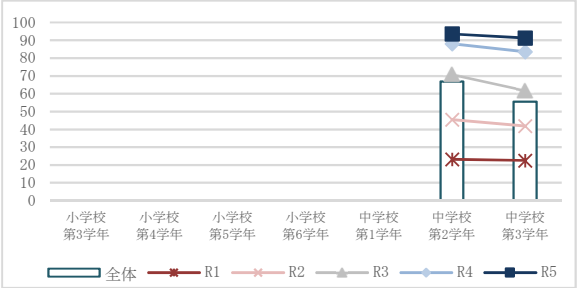
○なお、学年進行に伴い段階ごとの正答率に微減／増がみられるものの、同程度とみなしてもよい水準である。このことから、調査の難易度は両学年で十分統一されている。

◎（概括）これまでの外国語学習は受験のための一教科という側面が大きく、学習者個人のニーズと社会との関わりの視点が希薄で閉鎖的な傾向にあった。この反省に立つと、今後の外国語学習は次のような学びの構造転換が早急に求められている。教員から生徒への一方的な一斉授業の図式から児童・生徒の探究の場とする。生徒は各自に合った学び方を個別に選ぶことが大切であり、課題発見・探究の深まりの過程で協同の学びを共有する。したがって教員の立ち位置は自らも協働しつつ、従来の教授・支援にとどまらず生徒と共に学び社会や世界とつながる探究者であることが望まれる。

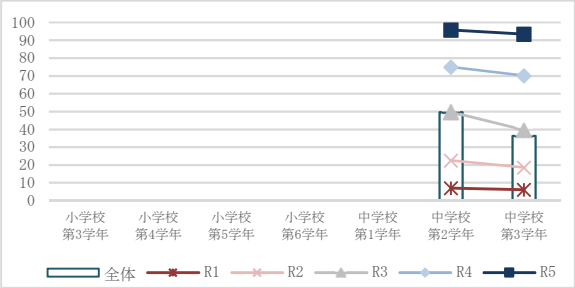
（3）基礎・活用別、観点別、領域別の学力段階ごとの平均正答率

①基礎・活用別

ア　基礎

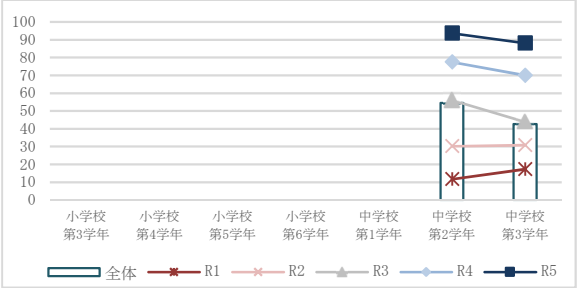


イ　活用

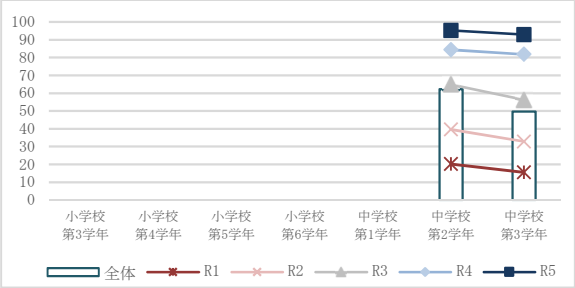


②観点別

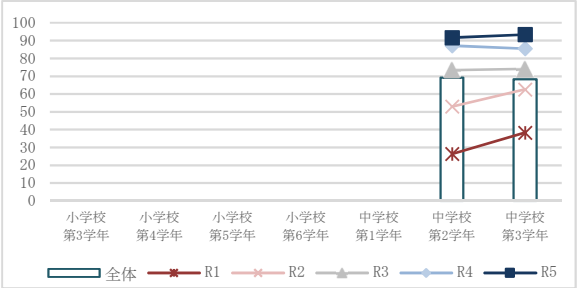
ア　外国語表現の能力



イ　外国語理解の能力

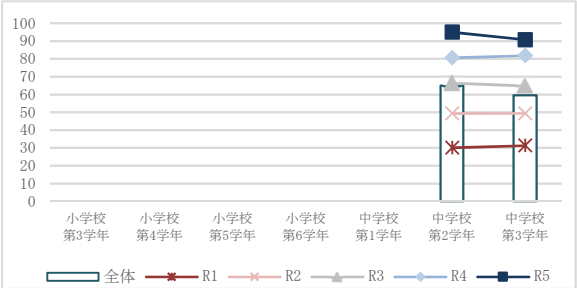


ウ　言語や文化についての知識・理解

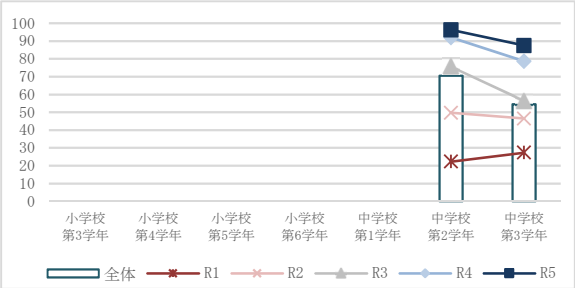


③領域別

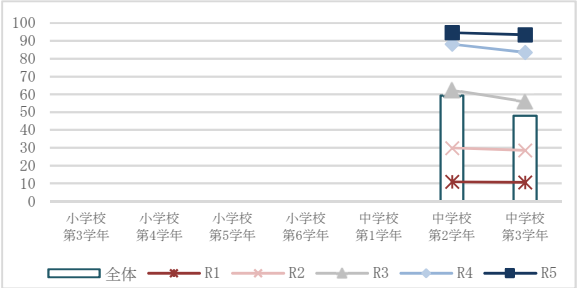
ア　聞くこと



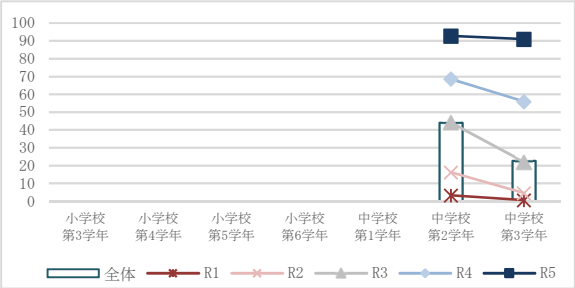
イ　話すこと



ウ　読むこと



エ　書くこと



〔基礎・活用別、観点別の考察〕

○学年進行に伴う正答率の変化は、「基礎」「活用」ともに低下傾向がある。

○段階別にみると、学年進行に伴い、「基礎」は R3 が下降、「活用」は R5～1 が下降の傾向がある。特に R3 の-10 ポイントが際立っている。

〔観点別の考察〕

○「言語や文化についての知識・理解」は、R4 以外は学年進行に伴う上昇がある。

○「外国語表現の能力」は、R2・1 は上昇、R5～3 は下降傾向がある。

○「外国語理解の能力」は、学年進行に伴い全段階で下降傾向がある。

〔領域別の考察〕

○「聞くこと」は、R5～3 に学年進行に伴う下降傾向がみられる。

○「話すこと」は、学年進行に伴い R1 以外の全段階で正答率の下降傾向がみられる。後述（4）イ①「会話の継続」②「問答・意見を述べ合う」に関する設問によれば、全レベルで通過率の低下がみられている。

○「読むこと」は、学年進行に伴い R4・3 は下降傾向がみられ、それ以外は微減である。ただしこの傾向は、「読むこと」の設問が全体に占める割合が、第 2 学年の 28%（7 問）と比較し、第3学年で52%（13問）に上昇することの影響もあると推察される。

○「書くこと」は、R5 を除き、学年進行に伴う正答率の低下が他領域と比較し顕著である。後述（4）エを参照すると、複数技能を統合するメモ（①）では R5 を除く全ての段階、つながりのある文章（②）では全ての段階で通過率の低下が著しい。

◎（概括 1）上記は、正答率を主たる材料にした考察であり、また同個体の経年変化に基づくものではないことを主たる理由とし、正答率の微細な変化や差をもって、学年進行に伴う傾向や観点・領域間を比較した傾向を同定することは避けるべきである。以下は、これらのことを前提としてもなお、解決する必要のある課題である。

◎（概括 2）「外国語表現の能力」「言語についての知識・理解」は、R1・2 に学年進行に伴う状況の改善がみられる。しかし、「外国語理解の能力」については、R5・4 を除く全ての段階でつまずきや学び残しがそのままになっている可能性がある。

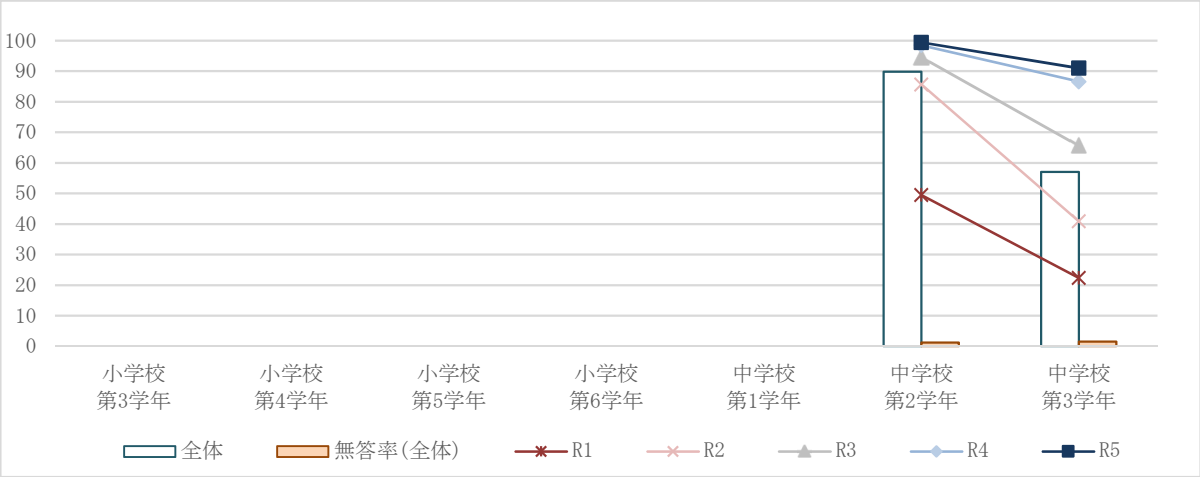
◎（概括 3）近年、領域別の指導については、4 技能を総合的に育成するために、個々の領域別指導に加えて、言語使用の実態からも 4 領域の統合的活動に配慮することが重視されてきた。さらに、小・中学校の円滑・意図的な接続を図ることで、日常生活に即して具体的なコミュニケーションの場面や働きを時間をかけてインプットしてきた力を、適切な表現を自ら考えて場面や状況にあった言語活動につなげていくことが求められてきた。しかし、今日までの実現状況をみると、常に最大の課題である書くことの正答率については今年度も改善できていない。生涯にわたる学習基盤を培うためには、今後 5 領域にわたるバランスのとれたコミュニケーション能力の育成について再度検討することはもとより、探究を軸に個別と協同の学びを通して学ぶ喜びを継続できる学びの構造転換を確実に、一歩ずつ実現することが必要である。

(4) 領域別に抽出した設問の(準)通過率・無答率

ア　聞くこと

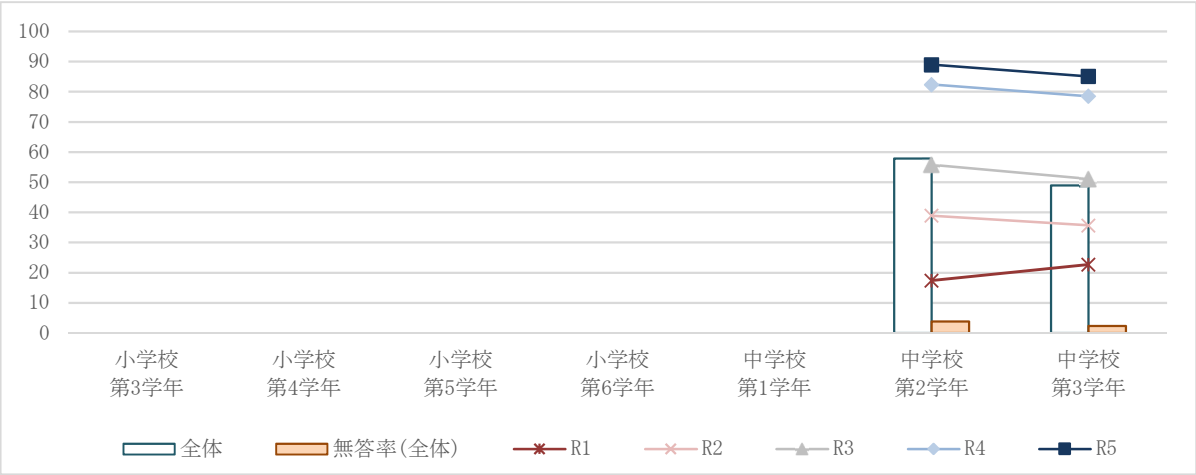
①「聞き返す・内容の確認」に関する設問の出題趣旨と学力段階別(準)通過率(%)

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨・内容【観点】
小学校	第3学年			
	第4学年			
	第5学年			
	第6学年			
中学校	第1学年			
	第2学年	C	1-4-1	(ｴ)　聞き返す・話の内容を確認する。【知】【理】
	第3学年	B	1-3	



②「概要・要点の聞き取り」に関する設問の出題趣旨と学力段階別(準)通過率(%)

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨・内容【観点】
小学校	第3学年			
	第4学年			
	第5学年			
	第6学年			
中学校	第1学年			
	第2学年	A	1-5-3	(ｳ)　質問・依頼などに適切に応じる。【理】
	第3学年	B	1-4-2	質問・依頼などに適切に応じる。【理】



〔「聞き返す・内容の確認」に関する設問の考察〕

第 2・3 学年ともに、聞き返す・内容の確認を趣旨とし、設問レベルはそれぞれ基礎 C と基礎 B である。全体の通過率は第 2 学年が 89.8%、第 3 学年が 57.1%であり、第 2 学年の R3 から 1 はそれぞれ 94.6%、85.7%、49.5%、第 3 学年は 65.6%、40.9%、22.4%である。第 2 学年は R2 と 1 の間に、第 3 学年は、R3 と 2 の間に大きな隔たりがある。道案内における聞き返しの場面で会話の内容は理解できても、聞き返すための方略を複数もっていないために正答率が低かったと推測される。

新学習指導要領の新領域「話すこと〔やり取り〕」では、円滑なコミュニケーションを進め、会話中の相手の意図を正しくつかむことを目標とする。その目標の達成には、当然話す力と同時に正しく相手の意向や気持ちを聞き取り、受け止めつつ、自己の考えや気持ちを伝える力も必要である。そのやり取りの力を高めるには、自分以外の他者とともに生活する学校という協同の学び場こそ最適である。基本的に、教員⇔生徒、生徒⇔生徒のやり取りは英語で行うことが原則である。日常用語や自然な流れの応対等を会得しながら、コミュニケーションの方略を確実に学び取れる経験を重ねる楽しさと充実感を求める学びへの期待に十分応えることが必要である。

〔「質問・依頼などに適切に応じる」に関する設問の考察〕

第 2・3 学年ともに、スピーチを聞いて要点を適切に聞き取ることを趣旨としている。設問レベルは第 2 学年で活用 A、第 3 学年は基礎 C である。全体の通過率は、第 2 学年 57.9%、第 3 学年 48.9%、第 2 学年の R3 から 1 の通過率はそれぞれ 55.8%、38.9%、17.4%、第 3 学年は 51.1%、35.7%、22.7%である。R5 の通過率も第 2 学年で 89.0%、第 3 学年 85.1%であり、難易度の高さが表れている。

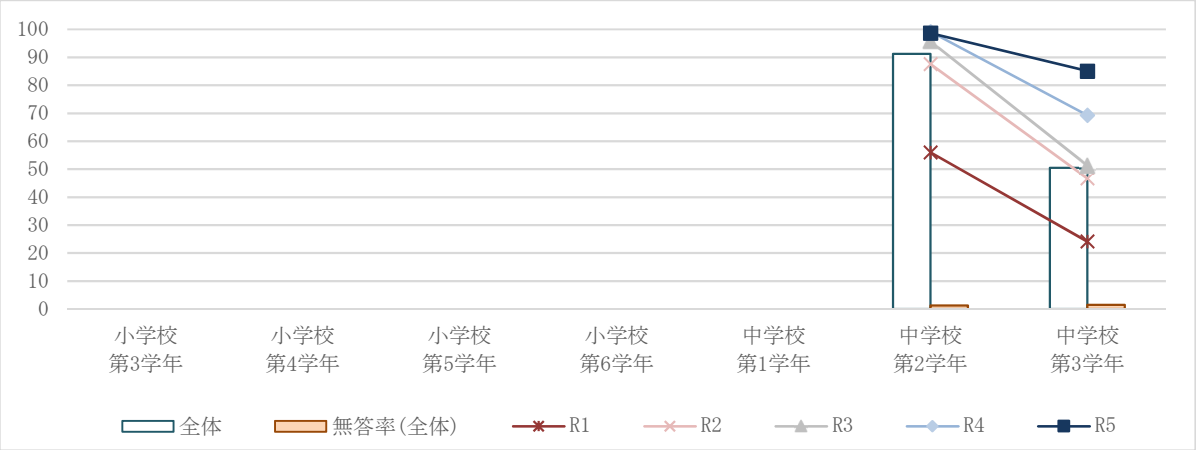
この設問では、まとまった文章を聞いて英問に解答するため、更に長い英文を聞き取らなければならない。正確に答えるためにはメモの取り方が鍵になり、多くの情報を素早く処理するためには、日常的に要点を選び取り英語でメモを取ることを習慣化したい。また、第 3 学年の英問では、スピーチの内容を international という言葉で総括的に言い換えて判断させているので、更に難易度が上がったと思われる。

聞くことは一般的に言語習得の入口とされている。音声でインプットされたものは気付きと理解を通して内在化されアウトプットにつながるとすれば、聞くことの起点は重要である。様々な発話スピードや聞く回数の設定、多様な素材と話者の活用、英語特有の音変化や文構造の理解等、多角的な手段が必要である。ときには生徒各自の興味・関心で教材を選んだり、学びたい方法で関われる条件設定をすることで、個別や協同の学びの選択を拡大し、真に自律的な学びの機会へとつなげていくことが可能である。さらに、学校以外の場所においても、多様なインターネットメディアを活用して自由な学びを発展させ、身近な生活範囲を超えて、世界が触れ得るところに存在していることを実感できる機会につなげていく必要がある。そのとき教員は限界を設定する者でなく、生徒と共に歩む探究者の存在になる。

イ　話すこと

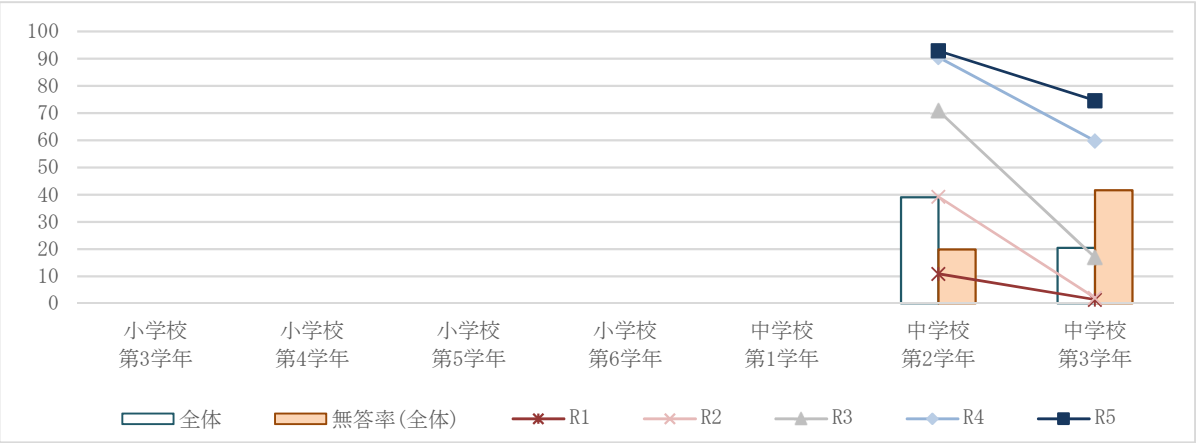
①「会話の継続」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	C	1-4-2	（ｲ）　つなぎ言葉を用いて話しを続ける。　【理】【知】
	第３学年	C	2-1-2	（ｳ）　話題をつなぐ応答をする。　【理】【知】



②「問答・意見を述べ合う」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	B	2-3-1	（ｳ）　話を聞き、特定の条件・状況下の質問に答える。【理】
	第３学年	B	2-2-2	（ｳ）　話を聞き、特定の条件・状況下の質問に答える。【理】



〔「会話の継続」に関する設問の考察〕

話すことは、本来紙面による測定は困難であり、考察に当たっては指導事項・設問が限定的であることを前提とする。そのうえでの出題趣旨は会話の継続である。設問レベルは両学年とも基礎Cであり、第2学年では使用場面の異なる表現の中から、相手の話に相づちを打つ基本的な表現を選ぶ設問、第3学年では様々な相づちの表現の中から対話の流れに乗って相手の話に関心を示し聞き返す表現を選ぶ設問である。全体の通過率は第2学年が91.3%に対して第3学年が50.5%であり、“Oh, really?”という定型の表現は単独で理解できている生徒が多いが、相手の発話に応じて表現を選択することにつまずきがあることが分かる。R3から1の通過率をみると、第2学年が95.7%、87.6%、56.0%、第3学年が51.3%、46.7%、24.1%と、それぞれR2と1の間に20～30%以上の差がある。また、無答率は両学年ともにR5～2が1%未満であるのに比べ、R1 のみ 10%前後と選択問題としては高く、基本的な会話表現の選択が難しい生徒が他の問題でも困難さを感じている場合が多いと考えられる。

新学習指導要領が示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、相手の話を受け止め、更に興味をもって会話を発展させていく力が不可欠である。R1 の生徒が潜在している力を発揮できるためには、必然的に「自分のことを相手に伝えたい」「相手の言うことを理解したい」と感じられるようなWho am I?クイズ大会、スキットショー、スピーチのようなアクティビティを生徒自ら企画・運営できる機会と場の中で、真のコミュニケーションを楽しみ、即興性を獲得していく姿を見守りたい。

〔「問答・意見を述べ合う」に関する設問の考察〕

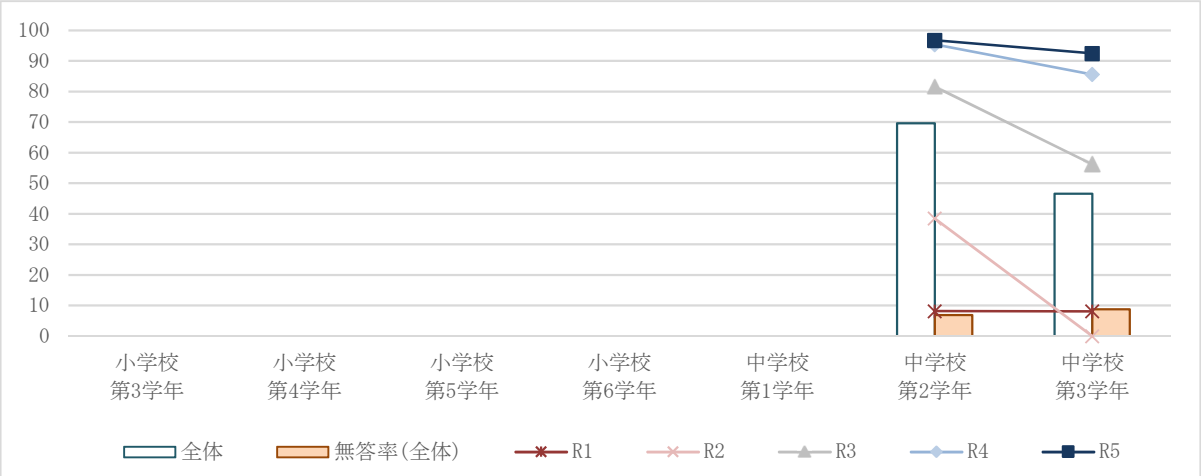
本設問は、対話の意味が通るように、特定の条件・状況下における適切な発話を趣旨としており、設問レベルは基礎Bである。第2学年では「相手に発言の繰り返しを求める言い方」、第3学年では「初めて行く土地で訪れるべき適当な場所をたずねる言い方」を問われている。全体の通過率は第 2 学年が 64.9%であるのに対して、第3学年が20.4%と、基礎Bの中で最も低い。第3学年の無答率は、R5・4が5%未満であるのに対し、R3が30.1%、2が64.7%、1が79.7%と大きく差が開いている。選択でなく記述で適する解答ができることが、R4 への一つのステップであると考えられる。正解だがスペリングミスのある生徒が両学年とも一定数いることから、書いて解答する難しさがあることを加味してもなお、基本的な応答としてはより高い通過率を目指したい設問である。

このような設問では、各個人が伝えたいと願う内容や表現は多様であるから、まず唯一の同じ解答を求められているという呪縛から解放したい。そのうえで、外国語を学ぶことは日本語とは違う音声や記号を使って自分とは無関係な事柄に関わることではなく、自分の思いや考えを表現できるコミュニケーションツールをもつことであることを体感し、互いの思いを伝え合うことで共感的理解や人間関係作りなど、豊かな社会性を育成することを外国語教育の目指す人格形成の一要素として共有したい。

ウ　読むこと

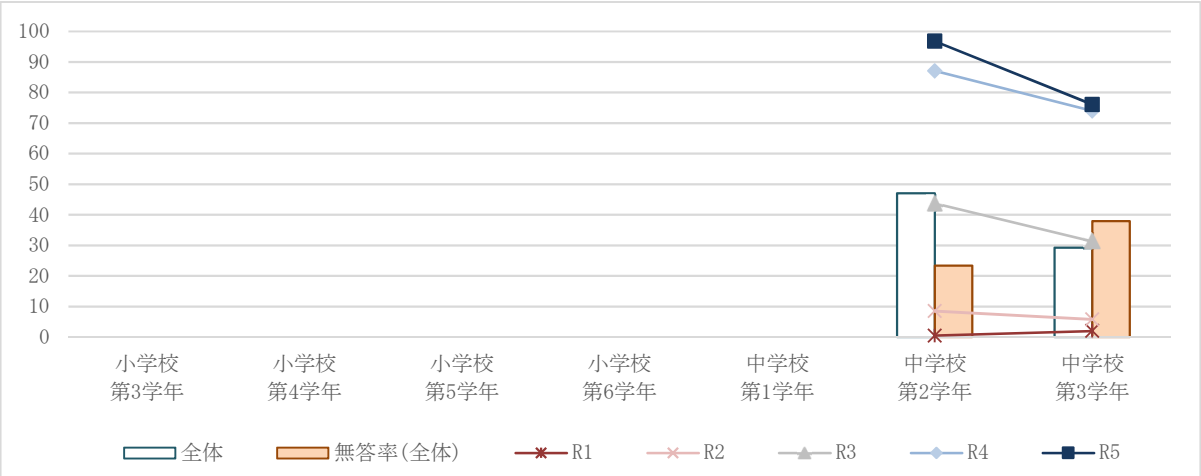
①「正確に読み取る」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	B	3-1	(ｳ) 金額を正確に読み取る。【理】
	第３学年	B	4-1	映画のタイトルを正確に読み取る。【理】



②「意向を理解し応じる」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	A	5-1	(ｴ) メールに対する返事を書く。【理】【表】
	第３学年	A	3	文化の違いに対する助言を書く。【理】【表】



〔「正確に読み取る」に関する設問の考察〕

本設問は、書かれた内容のあらすじや大切な部分などを正確に読み取ることを趣旨として出題している。設問レベルは両学年とも基礎Bである。第2学年では、英文を読み、対話の流れからホットドッグの値段を読み取る設問である。全体の通過率は69.6%で、その内訳を学力段階別にみると、R5と4の間は1.4%の差であるが、R4とR3の間には14%、R3と2の間には43%、R2と1の間には30%の差があり、R3以下の各段階の開きが大きい。第3学年では、対話の展開に沿って変化する条件を読み取り「映画のタイトル」を導き出す設問である。全体の通過率は46.6%であり、その内訳は、R5・4の間は7%、R4から2の間にはそれぞれ30%程度、R2と1の間には15%の差があり、中位段階ほど開きが大きい。

英文を正しく読むためには、目的を明確に意識して主体的に思考・判断し、与えられた条件等を活用しながら大切な部分を読み取っていくことが重要である。新学習指導要領の小学校第5・6学年外国語科におけるライム(rhyme)＝押韻を楽しんで物語を読む活動を踏まえ、中学校では、まとまった英文を読んで理解するために、音声を伴った読む活動から文字のみで内容理解に至る段階が必要である。また、ベースである教科書の題材を味わい共感することは、そこから派生する興味や情報に対しての自らの関わりを発展させる活動につながる。実生活に直接関わり即時性のある初見の雑誌や時事ニュースなどを楽しんだり、語彙数やボリューム等をレベル別にそろえたオーセンティックな物語を自らの力に合わせて選んだりして、多様なジャンルの語彙や表現に触れ、外国語を通して知識のみにとどまらない広い世界へ踏み出し、豊かな人生を探究する深い学びへとつながる力を身に付けていくことを期待したい。

〔「意向を理解し応じる」に関する設問の考察〕

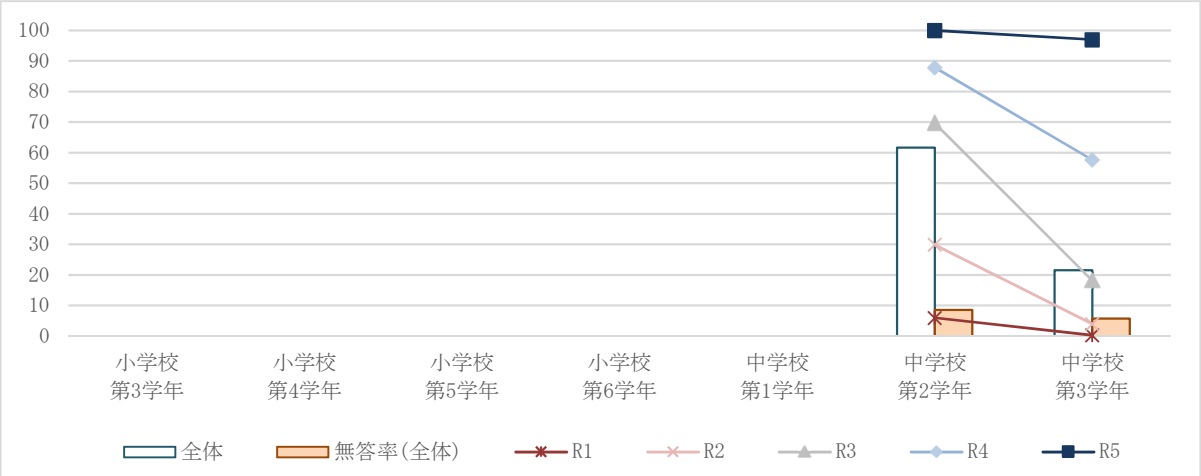
本設問は「書き手の意向を理解し、考えや気持ちなどを書く」という読むことと書くこととの統合を趣旨として出題している。設問レベルは両学年とも活用Aであり、書かれた内容や相手の意向を理解して適切に応じたり、意見や感想、理由を付けて賛否を示したりする段階を想定している。第2学年は「メールに返事を書く」ことで全体の通過率は47.1%、無答率はR2が49.1%、R1が68.5%である。第3学年は「ALTの相談にアドバイスをする」ことで全体の通過率は29.3%、無答率はR2が60.7%、R1が72.5%とある。下位段階では無答率が過半数を超える。

書かれた英文を理解し正しく応ずるためには、思考し判断する過程を抜きにして表現する結果だけを求めても難しい。キーワードの確認や要点把握のためのQ&Aや本文の穴埋めで済ませず、収集した情報を取り出して、内容に対する感想や賛否、数行の英文で整理した自分の考えなどを駆使し、ペアやグループで意見交換するなど、領域間の統合的な活動を実際に試行錯誤する経験を重ねることが重要である。また、発達段階に合ったテーマや活動の必然性があれば、相手の意向を理解し適切に取り組みながら主体的で創造的なパフォーマンスへと高まっていくことが期待できる。

エ　書くこと

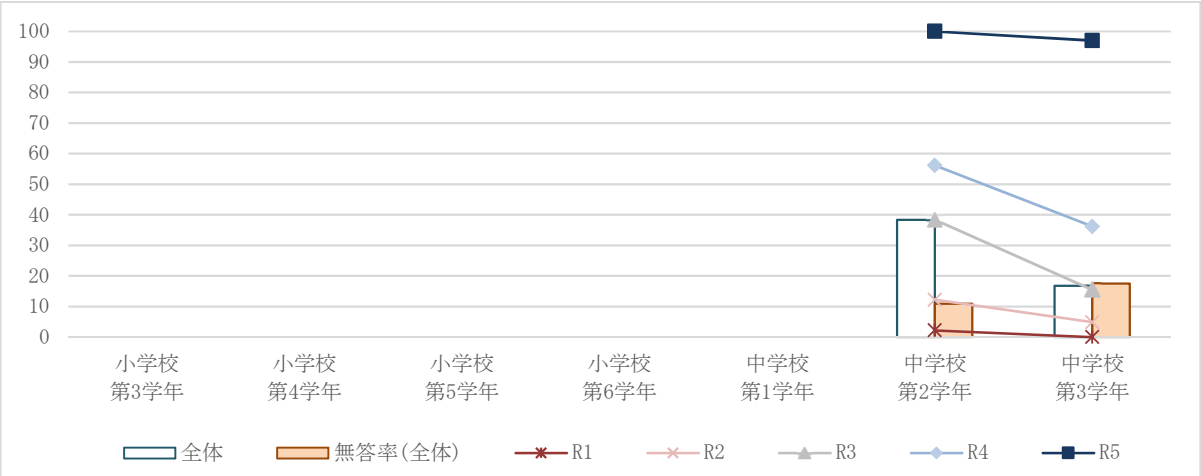
①「聞いたこと等をメモ」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	S	1-5-1	(ｳ) 聞いたことについて英語でメモする。【理】
	第３学年	S	1-4-1	スピーチの内容について英語でメモする。【理】



②「つながりのある文章」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	S	5-2	(ｵ) 他者紹介文を書く。【表】
	第３学年	S	6	日本の紹介文を書く。【表】



〔「聞いたこと等をメモ」に関する設問の考察〕

本設問は書くことの領域であるが、「聞いたことを英語でメモをとること」という聞くこととの統合を趣旨として出題している。設問レベルは両学年とも活用Sであり、社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由を書く内容表現の段階を想定している。第2学年はオーストラリアのシドニーについて、第3学年はイギリスのロンドンについてのスピーチを聞き、表にまとめられたメモを参考にその空欄を補充する設問である。第2学年の全体の通過率が 61.7%であるのに対して、第 3 学年は 21.6%である。その内訳を学力段階別にみると、第2学年ではR5から3の間にはそれぞれ15%前後の差があり、R3と2の間には40%、R2と1の間には24%の差がある。下位ほど開きが大きい。

一方、第3学年ではR5から3の間にそれぞれ40%の差があり、R3と2の間には14%、R2と1の間には4%程度の差がある。上位段階ほど開きが大きい。このことの背景には、個別対応の学習と経験不足があると考えられる。こうした課題の解決のためには、個別の学びと協力して課題を解決する協同の学びを効果的に融合させたり、単に少量のまとまった文を書ければよいのではなく、書く目的を明確にした多様な書く活動を取り入れたりしていく必要がある。単にトピックや要点のみを書くことにとどまらず、グループで責任分担して4技能をフル活動させるフォーコーナーズ、教員が読んだ文章を生徒が聞き取ったことをもち寄ってペアやグループで助け合いながら復元していくディクトグロス等の文章復元練習がある。文の量や難易度、時間等を生徒や教室の状況に合わせて設定し、協同して成果を出す意味のある活動をしたい。

〔「つながりのある文章」に関する設問の考察〕

本設問は、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことを趣旨として出題している。設問レベルはいずれも活用Sである。第2学年の設問は、好きな友達、歌手、スポーツ選手などから1人選び、ALTに紹介する3文を英語で書く。第3学年では、初めて知り合った外国の友達に日本を紹介するまとまりのある4文を英語で書く設問である。本設問は上記設問とは異なり、書くことの領域が単独であるが、全体の通過率が第 2 学年 38.4%、第3学年16.8%であることから、大きな課題と捉えることができる。

新学習指導要領では、「趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動」に始まり、個人的な話題から社会的な話題へ、数行の文から考えや気持ちやその理由まで、段階を追った書くことの指導の充実が求められている。英文が書けない原因には、基本的語彙・表現等の定着と生徒が自由に選べないトピックの設定等にある。それらを超えてもなおつまずきが大きい理由は、単に日本語を英語に直せばまとまりのあるよい英文が書けるのではなく、日本語と英語における書くプロセス、論理構成、基盤となる思考の位置付け等の言語文化の違いが、書くことに意外な困難を生んでいることに気付いていないことにあると考えられる。

3　各学年の結果と分析、考察と改善策

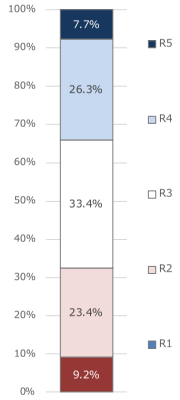
中学校第２学年

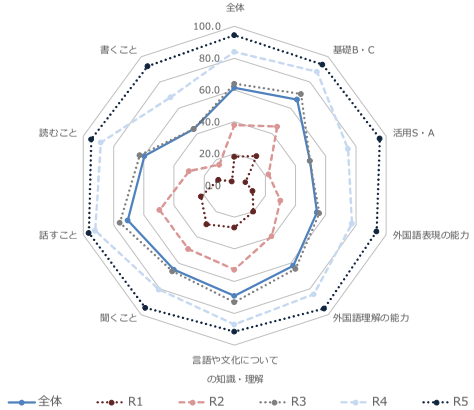
設問番号 連番	大問	小問	出題 学習指導要領に準拠した趣旨	内容	形式	解答形式	設問レベル	学習評価の観点 1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2 外国語表現の能力	3 外国語理解の能力	4 言語や文化についての知識・理解	5	指導内容の領域 A 聞くこと	B 話すこと	C 読むこと	D 書くこと	E	結果 (準)通過率(%) 全体	R1	R2	R3	R4	R5	無答率(%) 全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	ア(イ)情報を正確に聞き取ること	動作に関する情報を正確に聞き取る	選択	通常	基礎C			●			■					98.6	90.2	98.7	99.6	99.8	100.0	0.6	5.4	0.4	0.1	0.0	0.0
2	1	1	ア(イ)情報を正確に聞き取ること	時間に関する情報を正確に聞き取る	選択	通常	基礎B			●			■					60.1	21.7	37.4	62.5	81.6	90.3	0.8	7.1	0.6	0.0	0.0	0.0
3	1	2	ア(ア)強勢、イントネーション等を正しく聞き取ること	対話の内容から正しい強勢を判断する	選択	通常	基礎C			●	●		■					65.2	28.3	51.7	64.9	83.5	89.0	2.7	15.8	3.4	1.2	0.2	0.0
4	1	3	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	所有者に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎C			●			■					63.1	15.2	31.6	68.2	91.7	96.1	2.8	15.8	3.0	1.9	0.0	0.0
5	1	3	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	手段に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎B			●			■					69.6	17.4	47.9	76.7	90.3	96.1	2.3	16.3	2.1	1.0	0.0	0.0
6	1	4	ア(エ)聞き返す・内容を確認すること	話の内容を聞き返す	選択	通常	基礎C			●	●		■					89.8	49.5	85.7	94.6	98.5	99.4	1.2	12.5	0.4	0.0	0.0	0.0
7	1	4	イ(エ)つなぎ言葉を用いるなど工夫して話を続けること	話を続けるためにつなぎ言葉を用いる	選択	通常	基礎C		●		●			■				91.3	56.0	87.6	95.7	99.2	98.7	1.3	13.0	0.4	0.1	0.0	0.0
8	1	5	エ(ウ)聞いたこと・読んだことについてメモをとること	聞いたことについてメモをとる	記述	複合条件	活用S			●						■		61.7	6.0	29.9	69.7	87.9	100.0	8.6	49.5	15.0	1.6	0.0	0.0
9	1	5	2	ア(イ)情報を正確に聞き取り、エ(イ)正しく文を書くこと	スピーチの内容を正確に聞き取り、質問に対する答えを書く	自由記述	通常	活用S		●	●		■			■		16.0	1.1	2.4	9.0	17.5	100.0	32.3	77.2	56.0	28.7	9.7	0.0
10	1	5	3	ア(オ)概要・要点を聞き取ること	スピーチの内容を正確に聞き取る	選択	通常	活用A			●		■					57.9	17.4	38.9	55.8	82.4	89.0	3.8	25.0	4.9	0.9	0.2	0.0
11	2	1	1	イ(イ)考えや気持ち、事実などを正しく伝えること	誘いに対する自分の気持ちを伝える	選択	通常	基礎C		●		●		■				68.7	15.8	45.5	75.3	91.3	96.1	2.1	15.2	2.6	0.4	0.0	0.0
12	2	1	2	イ(イ)考えや気持ち、事実などを正しく伝えること	人物の評価に関する自分の考えを正しく伝える	選択	通常	基礎B		●		●		■				82.2	28.8	66.2	91.6	98.3	98.7	1.9	14.7	2.1	0.1	0.0	0.0
13	2	2	1	エ(イ)語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと	語と語のつながりに注意して正しく文を並び替える	記述	完答	基礎B		●		●				■		59.0	5.4	25.2	65.5	89.2	94.2	2.7	19.0	3.8	0.3	0.0	0.0
14	2	2	2	エ(イ)語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと	語と語のつながりに注意して正しく文を並び替える	記述	完答	基礎B		●		●				■		29.2	1.1	8.8	26.0	50.5	65.8	5.9	29.3	10.9	1.8	0.2	0.0
15	2	3	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B		●				■				64.9	10.9	39.3	70.9	90.5	92.9	19.8	63.6	36.8	13.0	3.4	1.9
16	2	3	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B		●				■				45.8	0.0	10.0	44.5	80.8	94.8	25.5	78.3	47.2	18.8	3.8	0.0
17	3	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	金額を正確に読み取る	記述	通常	基礎B			●				■			69.6	8.2	38.5	81.6	95.4	96.8	5.9	35.3	10.0	1.0	0.0	0.0
18	3	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	指示語が意味する内容を正確に読み取る	選択	複合条件	基礎B			●				■			55.2	21.7	30.6	52.8	80.5	93.5	5.1	25.5	9.0	1.8	0.0	1.3
19	3	3		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物が学んだことを捉える	記述	通常	活用A			●				■			58.0	4.3	28.8	62.3	87.5	91.0	18.3	69.0	38.5	8.5	0.6	0.0
20	3	4		エ(エ)自分の考えや気持ちなどを書くこと	話題に対する自分の考えを書く	自由記述	複合条件	活用A		●						■		56.9	6.5	26.3	56.2	91.8	92.9	15.0	62.0	29.9	7.0	0.0	0.0
21	4	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の行動に関する情報を正確に読み取る	自由記述	通常	基礎B			●				■			69.7	9.2	40.8	79.4	96.4	96.1	7.5	40.2	12.6	2.2	0.2	0.6
22	4	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の心情に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A			●				■			61.5	17.9	33.3	62.9	89.6	96.8	4.1	25.0	6.6	0.6	0.0	0.6
23	4	3		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の心情に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	基礎B			●				■			54.6	14.7	28.6	54.1	81.0	92.3	5.1	26.1	8.1	2.4	0.0	0.6
24	5	1		ウ(エ)書き手の意向を理解し、エ(エ)考えや気持ちなどを書くこと	メールの内容を理解し、適切に返事を書く	自由記述	複合条件	活用A		●	●				■	■		47.1	0.5	8.5	43.8	87.1	96.8	23.4	68.5	49.1	16.0	1.1	0.0
25	5	2		エ(オ)正しく伝わるようにつながりのある文章を書くこと	紹介文を書く	自由記述	複合条件	活用S		●						■		38.4	2.2	12.2	38.4	56.2	100.0	10.9	47.3	19.7	5.5	0.6	0.0
26																													
27																													
28																													
29																													
30																													

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

教科等	外国語
校種・学年	中学校第2学年
出題範囲	中学校第1学年
対応教科書	東京書籍

■学習状況の評定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）





設問 数	設問 %			平均正答率（%） 全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—		全体	61.4	18.0	38.2	64.1	83.9	94.3
17	68.0	基礎／活用別	基礎B・C	66.9	23.2	45.5	70.8	88.1	93.6
8	32.0		活用S・A	49.7	7.0	22.5	49.8	75.0	95.8
		観点別 1	コミュニケーションへの関心・意欲・態度						
11	44.0	観点別 2	外国語表現の能力	54.5	11.7	30.2	56.1	77.5	93.7
16	64.0	観点別 3	外国語理解の能力	62.3	20.2	39.6	64.9	84.4	95.2
7	28.0	観点別 4	言語や文化についての知識・理解	69.3	26.4	53.0	73.4	87.2	91.7
		観点別 5							
8	32.0	領域別 A	聞くこと	65.0	30.1	49.3	66.4	80.6	95.0
5	20.0	領域別 B	話すこと	70.6	22.3	49.7	75.6	92.0	96.3
7	28.0	領域別 C	読むこと	59.4	10.9	29.9	62.4	88.2	94.7
7	28.0	領域別 D	書くこと	44.0	3.3	16.2	44.1	68.6	92.8
		領域別 E							

レベル	活用	S	3	12.0
		A	5	20.0
	基礎	B	11	44.0
		C	6	24.0
形式	出題	選択	12	48.0
		記述	7	28.0
		自由記述	6	24.0
	解答	通常	16	64.0
		完答	2	8.0
		複合条件	7	28.0

学習状況の評定（学力段階） R1	R2	R3	R4	R5
9.2%	23.4%	33.4%	26.3%	7.7%

【語と語のつながりなどに注意して正しく書く設問　大問２ (2) ②　基礎Ｂ　29.2%】

対話文の意味が通るように、(　　) 内の語をすべて並べかえる。
A：(these / do / what / Chinese / mean / words)?
B： Sorry, I don't know.

■　分析

「書くこと」の領域の設問である。設問レベルが基礎Ｂにもかかわらず、全体の通過率は29.2%である。R5 の通過率は65.8%であり、通過率が 89%を下回ったのはこの設問だけである。他の段階の通過率は R4＝50.5%、R3＝26.0%、R2＝8.8%、R1＝1.1%である。無答率は5.9%であった。

■　考察

この設問の正答は、What do these Chinese words mean? である。無答率が高いわけではないことから、適切に答えられていない生徒が 70%以上いることになる。この正答文が教科書本文の既習事項にもかかわらず通過率が低い理由として、生徒は正答文を読んで理解することはできても、単語一つ一つを並び替えて英文を作成することにとらわれて、語の意味が分からないときに何と言うかの基本的な定型表現に思い至らなかったことが考えられる。選択肢の these, what, Chinese のそれぞれの語が形容詞と名詞の両方の品詞をもつ語であること、また、words という名詞に these と Chinese の二つの語が修飾していることがこの文の複雑さを更に増している。今後、どのように語彙と文構造の定着を図っていくことが課題である。

■　改善策

(1) 書く能力の土台となる語彙や文構造を理論的に理解することは必要であるが、同時に音声優先の原理から、基本文型については小学校以来インプットされたリズムやイントネーション等の語感や音声イメージを生かし、語と語のつながりが自然とアウトプットされる状況をつくりたい。そのうえで、語彙や文構造の定着のためには、身近な事柄について小グループでスキットやストーリーテリング等各班の発表形式を選ばせて取り組ませる統合型活動を継続することが有効である。

(2) 書くことへの意欲を高め、その意欲を継続・発展させるためには、具体例として、correction code の活用がある。4 人程度のグループでトピックと目標語数を決め、その「課題達成度合い」「正確性」「語彙の広がり」「スペリング」等複数の評価観点に沿い、作成した文について自己評価と相互評価を行うなどし、生徒が主体となり互いに協力し合いながら、書く喜びと能力を向上させることができる。

【読んだことについて問答する設問　大問２ (3) ②　基礎Ｂ　45.8%】

対話文の意味が通じるように〔　　〕に適する１文を書く。
A: How are you today?
B: 〔　　〕
A: What's wrong?
B: I have a toothache.

■　分析

「話すこと」の領域の設問である。全体の通過率は 45.8%である。段階ごとの通過率は、R5＝94.8%、R4＝80.8%、R3＝44.5%、R2＝10.0%、R1＝0.0%である。

また、全体の無答率は 25.5%と全ての設問の中で最も高い。R2＝47.2%、R1＝78.3%であり、これらの段階の多くの生徒が解答を記入していない。

■　考察

How are you today? は小学校英語から日常化されてきた最も基本的な質問であり、中学校での Daily Scene で体調についてのやり取りの定着を図っているため、正答を期待する、若しくは、何らかの解答を記入してほしい設問である。それにもかかわらず R3 以下の正答率が５割を下回った理由としては、その後に続く What's wrong?や toothache の意味が理解できなかったことが考えられる。これらは既習事項であり、基礎的な語彙・表現であるが、授業内の理解にとどまっていたと推測される。今後、どのようにコミュニケーションレベルまで高めていくかが課題である。

■　改善策

(1) 新学習指導要領は、教員が英語で授業をすることを基本に求めている。しかし、無意味に生徒に英語を聞かせているだけでは適切なアウトプットにつながらない。それゆえ、アウトプットを意識したインプットが重要である。具体的には、生徒に発話させたい基本表現をリストアップし、それを基に Teacher Talk の原稿を作成、計画的かつ意図的に英語を話すことで、よりよいアウトプットをさせることができる。その後、アウトプットを繰り返すことで、基本的な表現から自分が伝えたいことを英語で話せるように段階的に進めていくことが肝要である。

(2) 小学校においても児童による Small Talk が求められるとすれば、中学校はそれを引き継ぎ発展させる使命がある。特に上記の Daily Scene のような頻度の高い日常表現については、生徒同士がペアやグループで実感のあるコミュニケーションをし、互いの思いや考えを英語でも共有できることこそが、第二言語習得の目標実現に近付く確実な一歩となるはずである。

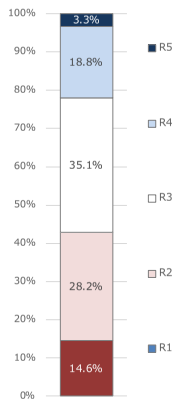
中学校第３学年

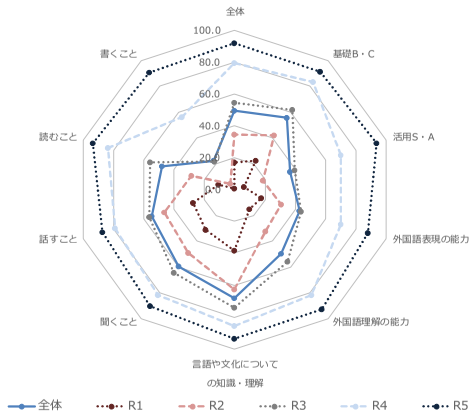
設問番号			出題					学習評価の観点					指導内容の領域					結果											
								1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2 外国語表現の能力	3 外国語理解の能力	4 言語や文化についての知識・理解	5	A 聞くこと	B 話すこと	C 読むこと	D 書くこと	E	（準）通過率（%）						無答率（%）					
連番	大問	小問	学習指導要領に準拠した趣旨	内容	形式	解答形式	設問レベル											全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	対話文中の意向に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎C			●	●		■					69.6	42.4	62.9	75.4	86.1	92.5	1.0	6.4	0.2	0.0	0.3	0.0
2	1	1	2	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	対話文中の誘いに適切に応じる	選択	通常	基礎B		●	●		■					87.9	53.2	87.1	95.8	99.0	100.0	0.9	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
3	1	2		ア(ア)強勢・イントネーション等を正しく聞き取ること	対話の内容から強勢を正しく判断する	選択	通常	基礎C		●	●		■					34.6	15.6	20.5	36.1	59.1	85.1	1.7	7.1	2.1	0.1	0.0	0.0
4	1	3		ア(エ)聞き返す・内容を確認すること	対話文中で聞き返し、内容を確認する	選択	通常	基礎B		●	●		■					57.1	22.4	40.9	65.6	86.6	91.0	1.5	9.5	0.2	0.1	0.0	0.0
5	1	4	1	エ(ウ)聞いたこと・読んだことについてメモをとること	スピーチの内容を聞き、メモをとる	記述	複合条件	活用S		●						■		21.6	0.3	4.0	18.2	57.7	97.0	5.7	30.5	3.8	0.4	0.0	0.0
6	1	4	2	ア(オ)概要や要点を適切に聞き取ること	スピーチの要点を適切に聞き取る	選択	通常	基礎B		●			■					48.9	22.7	35.7	51.1	78.5	85.1	2.3	13.9	0.7	0.1	0.0	0.0
7	2	1	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、気持ちを伝える	選択	通常	基礎C	●		●			■				89.1	52.9	89.5	97.2	99.5	100.0	1.3	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0
8	2	1	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、話題をつなぐ応答をする	選択	通常	基礎C	●		●			■				50.5	24.1	46.7	51.3	69.3	85.1	1.5	9.5	0.2	0.1	0.3	0.0
9	2	1	3	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、話題をつなぐ質問をする	選択	通常	基礎B	●		●			■				90.0	57.3	90.9	97.3	98.7	100.0	1.9	10.8	0.7	0.4	0.0	0.0
10	2	2	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B	●					■				22.9	1.0	3.5	19.2	66.4	77.6	40.1	74.9	60.7	30.8	6.0	3.0
11	2	2	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B	●					■				20.4	1.4	2.1	16.9	59.8	74.6	41.6	79.7	64.7	30.1	5.2	4.5
12	3			ウ(エ)書き手の意向を理解し、エ(エ)考えや気持ちなどを書くこと	文化の違いに関する書き手の意向を理解し、アドバイスを書く	自由記述	複合条件	活用A	●	●					■	■		29.3	2.0	5.8	31.3	74.0	76.1	37.9	72.5	60.7	27.2	3.1	3.0
13	4	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	観に行く映画のタイトルを正確に読み取る	記述	通常	基礎B			●					■		46.6	8.1	23.3	56.2	85.6	92.5	8.8	36.6	11.0	1.1	0.0	0.0
14	4	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	本文から状況を正確に読み取る	選択	通常	基礎C			●					■		38.4	8.8	21.9	40.8	73.8	83.6	4.3	23.4	2.4	0.6	0.0	0.0
15	4	3	1	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物のスケジュールを正確に読み取る	選択	通常	基礎B			●					■		47.3	20.0	26.7	49.9	86.9	91.0	4.5	22.4	3.0	1.3	0.0	0.0
16	4	3	2	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物のスケジュールを正確に読み取る	選択	通常	基礎B			●					■		54.9	12.5	27.8	69.2	94.2	98.5	5.0	23.7	3.5	1.5	0.0	0.0
17	4	4		ウ(オ)感想、賛否・理由を示すことができるように、内容や考え方を捉えること	本文を読んだ第三者の感想の理由となる内容を本文から捉える	選択	通常	基礎B			●					■		52.2	14.2	31.1	62.1	87.1	97.0	5.4	24.1	4.2	2.0	0.0	0.0
18	4	5		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の行動に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A			●					■		59.7	13.6	38.8	73.7	93.4	100.0	5.8	25.8	4.5	2.1	0.3	0.0
19	5	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の意見に対応する情報を、資料から正確に読み取る	記述	通常	基礎C			●					■		64.7	9.8	48.1	81.8	94.2	98.5	9.6	41.0	9.6	2.4	0.3	0.0
20	5	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見から、当該人物の経験に関する情報を正確に読み取る	記述	通常	基礎B			●					■		68.0	16.3	53.3	82.5	97.1	100.0	6.9	32.5	5.8	1.5	0.0	0.0
21	5	3	1	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、話題とは関係ない情報を正確に読み取る	記述	通常	活用A			●					■		66.4	16.3	51.6	80.0	96.3	100.0	7.4	34.6	6.5	1.4	0.0	0.0
22	5	3	2	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、話題とは関係ない情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A			●					■		52.8	16.3	37.8	56.1	89.8	98.5	9.5	32.9	9.6	5.4	0.8	0.0
23	5	4		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、共通しているものを正確に読み取る	記述	通常	活用A			●					■		21.2	0.0	2.3	19.6	57.7	85.1	21.7	52.9	28.3	16.2	1.8	0.0
24	5	5		ウ(ウ) 正確に読み取り、エ(ウ)感想、賛否・理由を書くこと	人物の意見を正確に読み取り、賛否とその理由を書く	自由記述	複合条件	活用S		●	●					■	■	22.7	0.0	3.3	23.0	56.2	94.0	37.2	77.3	55.4	27.5	3.7	0.0
25	6			エ(オ)正しく伝わるようつながりのある文章を書くこと	日本の紹介文を書く	自由記述	複合条件	活用S		●						■		16.8	0.0	4.9	15.5	36.2	97.0	17.5	55.9	20.6	8.6	2.6	0.0
26																													
27																													
28																													
29																													
30																													

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

教科等	外国語
校種・学年	中学校第3学年
出題範囲	中学校第2学年
対応教科書	東京書籍

■学習状況の評定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）





設問 数	設問 %			平均正答率（%） 全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—		全体	49.4	17.2	34.4	54.6	79.3	92.0
17	68.0	基礎／活用別	基礎B・C	55.5	22.5	41.9	61.7	83.6	91.3
8	32.0		活用S・A	36.3	6.1	18.6	39.6	70.2	93.5
		観点別 1	コミュニケーションへの関心・意欲・態度						
8	32.0	観点別 2	外国語表現の能力	42.7	17.3	30.8	43.9	70.0	88.1
19	76.0	観点別 3	外国語理解の能力	49.7	15.5	32.8	56.2	81.8	92.9
7	28.0	観点別 4	言語や文化についての知識・理解	68.4	38.3	62.6	74.1	85.5	93.4
		観点別 5							
5	20.0	領域別 A	聞くこと	59.6	31.3	49.4	64.8	81.8	90.7
5	20.0	領域別 B	話すこと	54.6	27.3	46.5	56.4	78.7	87.5
13	52.0	領域別 C	読むこと	48.0	10.6	28.6	55.9	83.6	93.5
4	16.0	領域別 D	書くこと	22.6	0.6	4.5	22.0	56.0	91.0
		領域別 E							

レベル	活用	S	3	12.0
		A	5	20.0
	基礎	B	11	44.0
		C	6	24.0
形式	出題	選択	14	56.0
		記述	8	32.0
		自由記述	3	12.0
	解答	通常	19	76.0
		完答	0	0.0
		複合条件	6	24.0

学習状況の評定（学力段階）				
R1	R2	R3	R4	R5
14.6%	28.2%	35.1%	18.8%	3.3%

【強勢・イントネーション等を正しく聞き取る設問　大問１　(2)　基礎Ｃ　34.6%】

対話文を聞いてその答えとなる文の中でいちばん強調して読む語を選ぶ。

F:　It's October 17 today.　Is tomorrow Keiko's birthday?

M:　No, it isn't.　Her　birthday　is　October　27.

ア　イ　ウ　エ　オ

■　分析

「聞くこと」の領域の設問である。設問レベルが基礎Ｃであるが、全体の通過率は34.6%で、同領域の基礎 C の設問 1 (1) の通過率の約半分の通過率である。段階ごとの通過率は、R5＝85.1%、R4＝59.1%、R3＝36.1%、R2＝20.5%、R1＝15.6%である。解答形式が選択形式ということもあり、全体の無答率が 1.7%と低い数字であるのに、通過率は基礎Ｃの中で最も低い数字である。

■　考察

扱われている対話文は、誕生日についての対話で小学校でも扱われている。この結果の背景としては、設問が一度しか読まれないため、集中に欠け、内容を聞き取れなかったことが考えられる。また、「強調して読む」という意味が理解できなかったということも考えられる。英語でも日本語同様に、何かを伝えたいときに、最も伝えたい言葉を強調して発話するという基本が習得できていないということである。

■　改善策

(1) 小学校での外国語活動の成果により、従前よりも英語の音声に慣れ親しみが深まってきているが、中学校においても音声を優先させる指導の必然性を再認識する必要がある。また、日頃の学習では、1 回で聞き取れないときには、理解できるまで聞き返せたり、リスニングの練習も２回繰り返して問題に答えたりするような場面が多い。しかし、1 回のみでも聞き取る心構えと集中力を身に付けられるように、ナチュラルスピードの英語を一度だけ聞いて答えるようなリスニング練習も取り入れる必要がある。その際、例えば、ディクトグロスなどで、1 回の英文を聞いた後、グループで話し合わせて正しい英文を協同して導き出す方法もある。

(2) 文字のみでは意図が分かりにくい会話も、音声として強勢やイントネーション、リズム、テンポ等を変えることで、意図したい情報を確実に伝えることができることを意識させる。そのために、本当にその情報を伝えたいと思う場面を選ばせたり、ペアやグループ活動等でインフォメーションギャップを利用したりするなどして、情報を相手に正確に伝えるためにはどうする必要があるのかを実践的に学ぶ機会を増やしていくことが大切である。

【大切な部分などを正確に読み取る設問　大問５　(4)　活用Ａ　21.2%】

海外への留学生と海外からの留学生に関する５人の生徒の意見を、グラフなどの資料を使って正確に読み取る大問中、本設問は５人の意見を読み、ほぼ共通の意見をもつ３人を見付け、次に、その３人の「ほぼ共通する内容」に当たる文を１文選び、抜き出して書く。

■　分析

長文問題である大問５は、設問６問中４問が複数の意見を比較し、情報を正確に読み取る設問である。レベルは、4 問中 3 問が活用 A である。同じレベルの他の設問の通過率が 66.4%、52.8%であるのに対し、本設問の通過率は 21.2%である。また、段階ごとの通過率は R5＝85.1%、R4＝57.7%、R3＝19.6%、R2＝2.3%、R1＝0%である。同じ「読むこと」領域の活用 A で、記述解答形式の設問 5 (3) の通過率の三分の一以下と低いものになっている。

■　考察

本設問は、まず、5 人の中でほぼ共通の意見をもっている 3 人を見付けなければならない。5 人の意見を短時間で読み取り、相違点を理解して共通の意見をもつ 3 人を探すことが困難であったと考えられる。3 人以外のもう一人の意見も、考えようによっては共通する意見と捉えられなくもなく、共通の意見の３人にも微妙な違いがある。R5 の生徒たちにとっても難しい課題であったと考えられる。

■　改善策

(1) ある程度の量の文章の大意把握の力を高めるために、ジグソー法が有効である。本文を幾つかに分割して、最初は個人で読む時間を取り、次に同じパートを読んだ者同士で内容を確認し、その後に自分以外のパートを読んだ者とペアを組み、相手に自分が読んだ内容をリテリングすることによって文章の内容を把握する。最後に自分が読んでいない部分についても、他のグループからの内容についての情報をもったうえで読ませることで大意把握力を付けることができる。

(2) 似通ってはいるが異なる英文を正確に読み取るために、Think-Pair-Share 法を取り入れることも考えられる。単語の意味や連語、指示代名詞の把握等を一人で行い、その後にペアで確認する。その際ワークシートを利用することも考えられる。最後に自分たちの学んだことを発表することで理解を深めることができる。

(3) 日本語とは異なる英語における議論（argument）の特性をわきまえることで、意見文の整理・理解が進みやすくなる。日本語の文化背景からくる固定観念に気付き、グローバルコミュニケーションの方法にシフトすることも必要である。

4　総括：外国語教育における学びの構造転換に向けて

外国語の調査結果では、まず、「聞き返す・内容の確認」に課題がみられた。「問答・意見を述べ合う」設問は基礎であるにもかかわらず通過率が 30%を下回っている。近年、相手の発話に関心をもって聞き返し、意向や気持ちを理解したうえで適切に応じることは、話すことのやり取りや会話の継続につながるコミュニケーションの起点としてより一層重要視されている。小学校で音声や基本的な表現に慣れ親しんだ成果は明確であるが、中学校に引き継ぎ定着させる段階からは表現を更に多様なものへ展開しなければならない。

さらに、あらすじや大切な部分等を「正確に読み取る」設問では、特に、まとまったある程度の分量の文を読むことに課題があった。「他者の紹介文」や「日本文化の紹介文」に関する書く活動の設問は、調査開始来の継続的な課題である。読む目的や置かれている状況、行動や心情の変化に応じて必要な情報を捉えるためには、全体と部分を見極めて思考し、判断する過程の積み重ねが不可欠となる。読み手に正しく伝わるよう文と文のつながりなどに注意して書くには、基本的な表現や文構造の理解が前提となる。

領域を統合した設問に関する課題は、上記と同時並行的に解決しなければならない。そのためには、必然的な意味や目的、場面等をもった実際のコミュニケーションに極めて近い活動の設定が不可欠である。その中で、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的や場面等に応じて情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築する。そして、万人が納得する論理に沿った聞き方や読み方、話し方や書き方ができるよう、外国語の特質に応じた見方・考え方を育むことが必要である。

これらの課題を踏まえ、これからの外国語教育は、新学習指導要領の全面実施を見据えつつ、学びの在り方を根本的に考え直さなければならない。義務教育 9 年間にわたる目標・内容の系統性と方法の連続性を十分に踏まえて JTE や ALT などと協働することはその前提条件であり、それがあって初めて学びの構造転換は実現する。そして、その最たる目的は、教科等の特質に応じた見方・考え方を中核とし、外国語によるコミュニケーション探究の方法たる「学び方」を全ての児童・生徒に育むことである。

そこで、中学校の外国語科学習の要点は、第一に、一人一人の生徒に潜在している様々な先行経験すなわち「素地」を統合的に発現させることにある。しかしこの素地は、個々によって多様である。仮に音声を通じた基本的な表現のインプット量が同等であっても、それを発現するコミュニケーションへの関心や意欲、何より間違いを恐れない態度には大きな差がある場合が多い。したがって学習の導入期には、Small Talk などの活動において、自分の得意な部分を伸ばし苦手な部分を克服するための目標を学習者自身が【個別】に選んで設定したり、【協同】し互いに課し合ったりすることで、生徒たちは能力伸長の【探究】に相乗的に浸ることができる。このことを読むこと・書くことに展開するなら、自分たちの共通関心下にあるオーセンティックな材料を探し、あるいは同じ材料に興味をもつ生徒がペアやグループとなり、内容について質問し合ったり、往復的にストーリーをつなぎ合ったりする活動が具体例となる。個別・探究・協同とその融合は、こうして四技能・五領域を統合していく。これからの教員に求められるのは、こうした原理下に生徒たちと共によりよい学びと成長を探究する「共同探究者」としての在り方であり、知の教授や活動の支援もそれがあって初めて真に学習者の成長に資する教育方法となる。